

「The Family of Man（邦題: 人間家族）」

展の遺産研究事業へのご協力をお願い

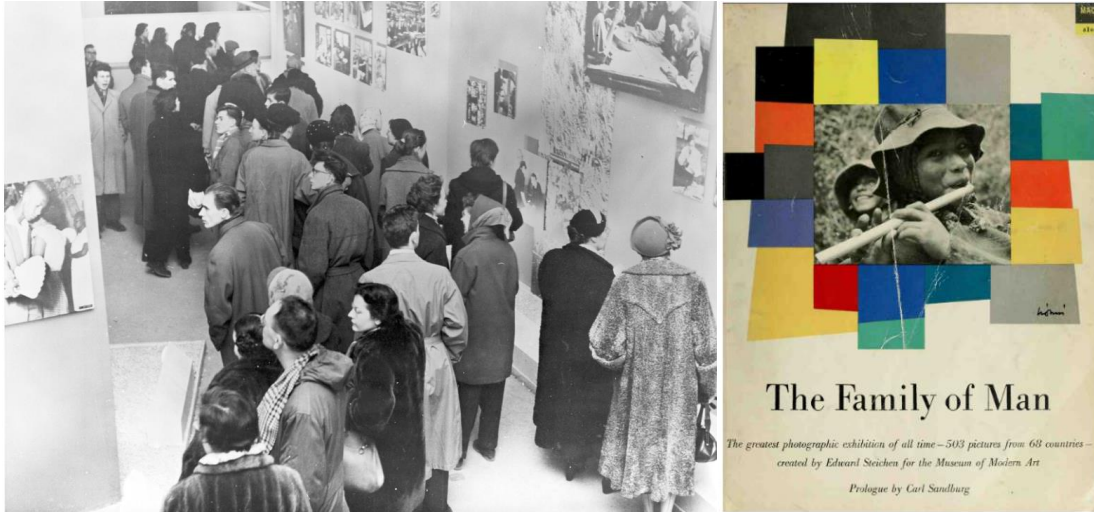


図 1. 1965 年、パリでの展覧会オープニング。米国国立公文書記録管理局所蔵、写真番号：286-MP-par-08673

図 2. 1955 年、MoMA（ニューヨーク近代美術館）のためにマコ・マガジン・コーポレーションが発行した「The Family of Man」展カタログ（ソフトカバー版）

ルクセンブルク大学の C²DH（現代デジタル歴史研究センター）は、現在 FoMLEG（「The Family of Man / ザ・ファミリー・オブ・マン（人間家族）」展の遺産研究）と題する研究事業を実施しております。本研究は、冷戦期（1955-1963 年）における「人間家族」の世界巡回写真展と、1965 年以降のルクセンブルク国内での同展覧会の歴史研究を通じて、エドワード・スタイケンのその象徴的な写真展に新たな光をあてようとするものです。日本国内では首都圏だけでなく、秋田、静岡、鹿児島など全国 20 か所以上で開催されました。

この研究の一環として、「人間家族」展に関連する個人的なストーリー、思い出、または体験談を募集しています。世界巡回展で鑑賞された方、ルクセンブルクのクレルヴォーで鑑賞された方、あるいはこのテーマに個人的・文化的な関わりを感じる方——皆様の視点が、私たちの研究にとって何より大切な要素となります。

以下のご協力をお願いしております：

- 展覧会訪問時の個人的な思い出
- 展覧会に関連する写真、手紙、記念品
- 展覧会が、あなたの写真に対する考え方、人間性、文化的アイデンティティの見方に与えた影響についての考察

皆様のご協力は、「人間家族」が時代を超えて個人や社会にどのような影響を与えてきたのかを理解する上で貴重な手がかりとなります。選出された体験談等は、今後の出版物、展覧会、デジタルアーカイブ等で紹介される場合がございます（事前にご本人様に確認いたします）。皆様のご協力により、より多様で包括的な集合的記憶の形成が可能となります。

体験談のご提供や研究事業の詳細については、下記までお問い合わせください：

- 国際巡回展に関するお問い合わせ：emilia.sanchez@uni.lu
- ルクセンブルクにおける「人間家族」展関連のお問い合わせ：claudewert@uni.lu

「人間家族」展の遺産を共に紡ぐ一員となってください、心より感謝申し上げます。

